



地域子育てネットワークだより

令和8年4月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課

E-MAIL : danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 73122)

「子育て応援ネット」活動紹介

各市町の子育て応援ネットの活動内容をご紹介します！ぜひご参考にしてみてください♪

神戸県民センター

神戸市

- ▶ 昔あそび ▶ おやこ英語 ▶ 絵本のススメ
- ▶ 親子でフラワーアレンジメント

阪神南県民センター

西宮市

- ▶ 子育て地域サロンの開催
- ▶ 見守り・声かけ・相談・情報提供等
- ▶ 活動者向け研修会

阪神北県民局

伊丹市

- ▶ 子育て支援に関する交流会や講座など

猪名川町

- ▶ 子育て支援に関する広報誌の発行や研修会

東播磨県民局

明石市

- ▶ 子育て支援に関する情報交換や講演会等

加古川市

- ▶ 登下校時における児童への声かけ・見守り
- ▶ 保育園・幼稚園などでの交通安全教育

高砂市

- ▶ 登下校時の声かけ・見守り、あいさつ運動

稲美町

- ▶ 登下校時のパトロール（声かけ・見守り）

播磨町

- ▶ 3世代交流・イベントの開催・あいさつ運動

中播磨県民局センター

姫路市

- ▶ 各種団体との情報交換や勉強会
- ▶ 季節のイベントやお誕生日会
- ▶ 音楽遊び、フラワーアレンジメント等

但馬県民局

新温泉町

- ▶ 「あいさつ・そうじ・あとしまつ」運動
- ▶ 見守り活動 ▶ 青少年育成町民大会

北播磨県民センター

三木市

- ▶ 多世代交流事業「にこにこまつり」ブース運営
- ▶ 読み聞かせ会、親子料理教室等

小野市

- ▶ 研修会 ▶ 広報誌発行
- ▶ 地域イベント（子ども縁日）への参画

加西市

- ▶ 子育てイベントの開催（消防一日体験）
- ▶ 登下校時の声かけ・見守り活動

加東市

- ▶ 昔あそび&スポーツ大会
- ▶ ヤングケアラーの講演会

多可町

- ▶ 「たかっこフェスタ」や「子育て応援公演」などの子育てイベントの開催

西播磨県民局

相生市

- ▶ 声かけ・見守り活動とチラシ・グッズ配布

たつの市

- ▶ 子育て家庭応援推進員研修会

赤穂市

- ▶ 子育て応援ボランティア養成講座の開催

宍粟市

- ▶ 登下校時の声かけ、子育て家庭への見守り

丹波県民局

丹波市

- ▶ 子育て家庭への声かけ ▶ 見守り活動
- ▶ 子育て応援研修の開催
- ▶ 子育てイベント（人形劇）

淡路県民局

淡路市

- ▶ 野外活動や親子ふれあいイベント
- ▶ 子育て支援に関する情報交換や講演会

SOS キャッチ研修紹介～淡路県民局～



《テーマ》「子ども虐待の現状への理解」
《講師》 中央こども家庭センター洲本分室課長 中川 由紀子 氏

《テーマ》「こども虐待の現状を理解し、予防・対策を地域で考える」
《講師》 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科
教授 倉石 哲也 氏



- 県内の虐待相談件数は過去最大となっています。少子化が進む中で、件数が増加している理由は・・・
- ① 虐待への関心の高まりによって、潜在化していたケースも把握できるようになったこと
 - ② こどもの目の前で行うDVが児童虐待と認識されるようになり、警察からの通告が増えたこと
 - ③ 「兄弟」ケース（直接被害児以外の児童への心理的虐待）の通告も受理するようになったこと
 - ④ 児童相談所虐待対応ダイヤル「189・いちはやく」が普及してきたことなどが挙げられます。

虐待は自分の置かれている状況に本人が気づいていないことや、気づいても言語化できないこともあるため、信頼できる他者からの代弁が必要です。虐待を受けたこどもは、人格形成の歪みが学校適応能力の低下（対人関係や低い自己評価）を招き、これらが学習の遅れや学校生活上のトラブルという二次的ハンディも背負わされます。

R6年度の虐待の対応の中で最も多い対応方法が、在宅支援（868人・83%）で、次に一時保護（157人・15%）、施設・里親委託はわずか20人（2%）です。要保護児童として通告を受けた相談の多くは、在宅や地域で継続して支援しているのが現状です。

医療機関などで虐待を見つけるきっかけになるのがあざです。耳、胸腹部、陰部や背部にあるあざは虐待の可能性が高く、膝や肘、おでこといった部分はけがの可能性が高いです。また、被服部位、手の甲、足底、大腿部内側も虐待を疑います。できたてのあざは赤い色をしており、2～3日経過すると青や黄色い色となります。様々な色のあざが同時にある場合も虐待を疑います。

虐待を減らすには、私たちが関心を向けることが最も重要です。1人でも多くの方が正しい知識を得ることが、1つでも虐待を減らす近道です。万が一「虐待かも」と思ったら、ためらわずに「189・いちはやく」へ連絡してください。「誤報なら良かった」というくらいの認識でいるよいのです。



連載 180回

窓やベランダなどからの転落に注意



県立こども病院名誉院長 中村 肇

春の陽気とともに、窓を開け放したり、ベランダへ出る機会が増えます。窓やベランダからの転落事故が多いのがこの春先です。

子どもの頭は、おとなに比べ相対的に大きく・重く、柵から下を覗き込むと、バランスを崩して、容易に転落する危険があります。

1歳を過ぎ、歩き始めた子どもには、ベランダをこどもの遊び場にしないようにし、こどもだけでベランダに出ないように注意しましょう。

<注意ポイント>

1. ベランダに植木鉢・椅子などの踏み台になるものを置かないようにしましょう。エアコンの室外機は手すりから60cm以上離して設置するか、上からつるしましょう。
2. 窓を開ける幅を制限できない場合は、網戸に寄りかかれないよう柵を設置しましょう。窓に補助錠やストッパーをつけて、大きく開かないようにしましょう。
3. 窓の近くにベッドやソファなど踏み台になるものは置かないようにしましょう。
4. こどもだけを家に残して外出することは避けましょう。

資料：[こども家庭庁子どもの事故防止ハンドブック](#)

HPはこちら→

